

経営比較分析表（令和5年度決算）

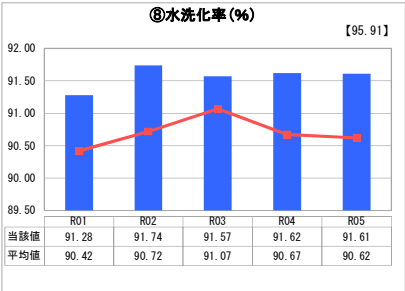
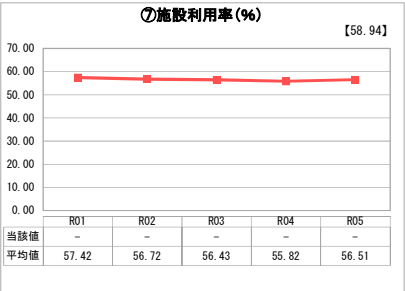
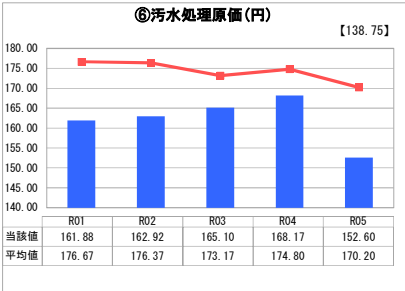
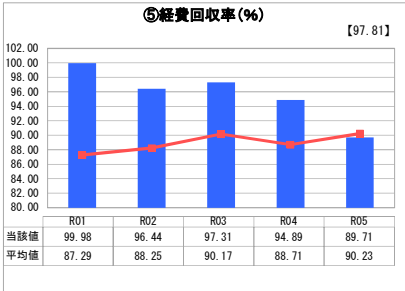
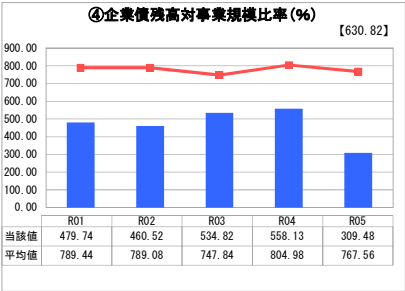
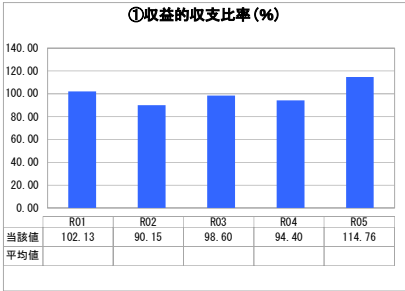
香川県 宇多津町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	87.49	92.95	2,475

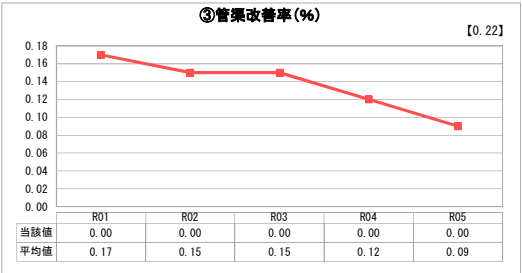
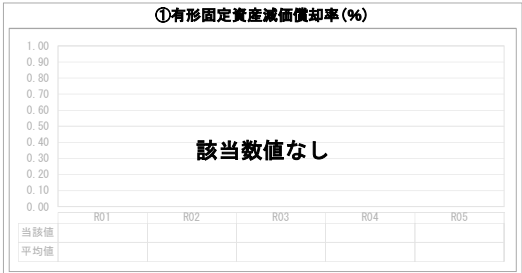
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,455	8.10	2,278.40
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
16,048	4.08	3,933.33

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率（全体収支が黒字であれば100%以上）については昨年度から大幅に改善しているが、これは公営企業法適用に伴い基金を整理し繰入れたものが収益に計上されているものであり、この基金繰入を除いた場合の当指標は100%を下回る。今後、適切な維持管理の継続と元金償還金の低減による総費用の縮減を図る。

経費回収率（汚水経費が使用料で賄えていれば100%以上）についても大幅に低下しているが、これについても公営企業法適用に伴う打切決算により、従来出納整理期間に入出金されていたものが反映していないためである。それらを考慮した場合の値は100%を超えており、これは汚水処理費の縮減がなされているといえる。

汚水処理原価（有収水量1㎡あたりの汚水処理費用）についても同じく汚水処理費の低減により改善する。かつ類似団体よりも低いため、汚水処理については比較的効率よく運営できているといえる。

2. 老朽化の状況について

企業債残高対事業規模比率（使用料に対する企業債残高の割合）が低下しており、類似団体よりもかなり低い水準であるが、今後老朽化した施設の更新工事を予定しており、必要な投資が先送りになっているわけではない。調査のうえ適切に投資を行っていく。

全体総括

汚水処理施設については概成したため、今後大規模な整備計画はなく処理人口・有収水量の大幅な増加は見込めないが、過去の整備時の借入金が完済するものもあり、汚水処理費は低減傾向にある。しかしながら今後は老朽化による維持管理費の増加・更新に費用を要することが予想され事業運営はますます厳しくなっていく。令和7年度には経営戦略の改定を実施するとともに公営企業としての経営を適切に分析し、事業運営の方針を検討していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。